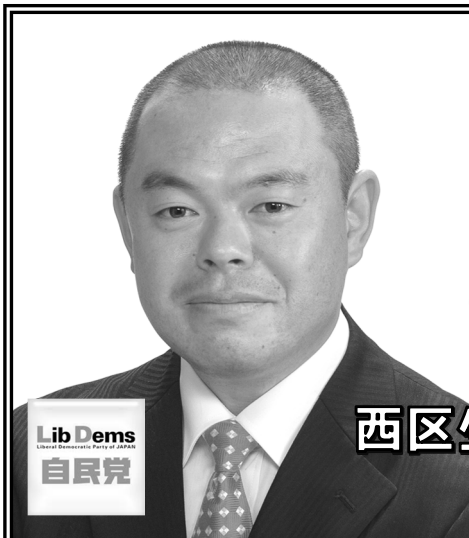




さいたま
市議会議員
(西区選出)

かない やすひろ
金井康博

市政レポート ～第2号～

西区生まれ、西区育ち。若さ、行動力を最大限に！
市民の声をスピーディーに！！

さいたま市立大宮西高等学校の中等教育学校への改編スケジュール

大宮西高校			中等教育学校		
3年	2年	1年			
H28					
H29					
H30					
H31				開校	1年
H32				2年	1年
H33			3年	2年	1年
H34		4年	3年	2年	1年
H35	5年	4年	3年	2年	1年
H36	6年	5年	4年	3年	2年

さいたま市では平成19年度からさいたま市立浦和高等学校に市立浦和中学校を併設し、中高一貫教育(併設型中高一貫教育校)を開始しております。今回の中高一貫教育校は、設置形態を「中等教育学校」として6年間の系統的・継続的な教育活動により、育てたい生徒像の具現化が期待できることと

であります。現在の市立大宮西高等学校は平成25年度からグローバル化先進校としての取組を開始しております。これをさらに発展させ、さいたま市から世界へ飛躍するグローバル人材の育成を行ってまいります。併設型中高一貫教育校と中等教育学校を併せ持つ政令指定都市は、全国初となります。

現在のさいたま市大宮区三橋にある、さいたま市立大宮西高等学校を、平成30年度からの生徒募集を中止して、平成31年4月に「中等教育学校」として開校を予定しています。中学校に相当する前期課程と、高等学校に相当する後期課程を一つとする6年制の学校が、中等教育学校になります。



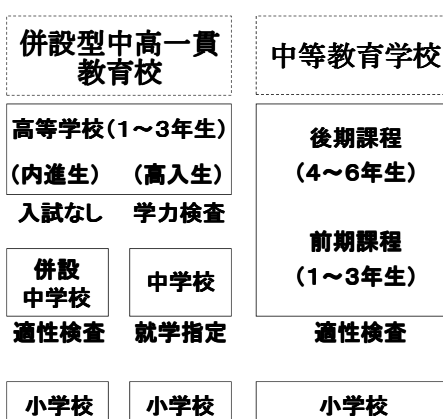
新たな中高一貫教育校が 設置されます

中等教育学校

～工事の流れ～

- ・平成28年6月上旬: 工事落札者決定
- ・平成28年10月: 特定事業契約に係る議会議決(本契約の締結)
- ・平成28年10月～Ⅰ・Ⅱ期設計
- ・平成29年4月～平成31年2月: Ⅰ期(前期課程校舎)建設期間
- ・平成32年4月～平成34年2月: Ⅱ期(後期課程校舎)建設期間

～中高一貫教育校の形態図～



～中等教育学校の 基本的枠組み～

- 設置形態: 中等教育学校(6年制)
- 設置場所: 現大宮西高等学校を中等教育学校に改編
- 学校規模: 各学年160名(40名・4学級)合計960名
- 通学区域: さいたま市内
- 育てたい生徒像: さいたま市から世界へ飛躍するグローバル人材

さいたま市議会12月定例会において 市政に対する一般質問を行いました



さいたま市全体に係る問題、西区に係る問題など、現在直面している事、これからのさいたま市を見た上で、質問をさせて頂きました。

1 農業後継者の 育成・確保について

【金井康博質問】 さいたま市において平成2年の農業人口は3万1664人、農家人口率は3.1%、平成25年の農家人口は1万1772人、農家人口率は0.9%であり大幅に減少しているが農業後継者の現状及び確保対策は。直売所での販売をはじめ、特産、農産物のブランド化など地産地消事業を進めているが販売拡大の対策は？

【経済局長答弁】 農業後継者の現状でございますが、現在市内には農業後継者団体に所属している後継者が99名、平成26年度における新規就農者は10名となっており、過去5カ年の累計では65名という状況でございます。農業後継者確保対策につきましては、規模の拡大や効率化などの事業実施に対して農業施設や機械の導入に対する経費の一部助成を図るとともに、就農する際には多くの課題がございます。昨年の農業経営基盤強化促進法の改正に伴い、本市

の農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想を改正し、青年等就農計画の達成に向けた支援及びフォローアップを行う認定新規就農者の制度が始まり、後継者、新規就農者への手厚い支援を行っており、また新たな対策として就農意識の高い者への円滑な就農に向けまして農業研修の場を創設すべく、さいたま市版就農予備校開設に向けた取り組みを検討しているところでございます。特産農産物のブランド化についてでございます。市内では、クワイ、紅赤に代表される特色ある農産物が多く生産されており、農、商、工連携による加工品の開発、商品化を推進しております。平成26年度には8事業者により19商品が販売されており、平成25年度から新たな取り組みとして企業やレストラン、また消費者のニーズに着目し、新たな品目としてヨーロッパ野菜を取り上げ、おのおののニーズを反映させました。おいしい物を作るといふ農業を支援し、ヨーロッパ野菜の生産の安定、販路拡大に向けたPR活動が行われ、生産、販路、そして消費という新たなモデルケースとして軌道に乗り始めております。

2 産業集積拠点 について



【金井康博質問】 さいたま市は、東北、上越、北陸などの新幹線が乗り入れており、また各高速道路へのアクセスもしやすいことから鉄道、

道路のネットワークが充実しております。この充実したネットワークは企業側も注目しており、さいたま市への進出ニーズが多く寄せられているものの、一方では、企業側の進出ニーズに対して案内できる用地、オフィスが不足している状況であるとも伺っております。現在さいたま市に寄せられている企業側のニーズと案内できる用地、オフィスの現状を教えてください。新大宮バイパス、西大宮バイパス、上尾道路が交差している西区を含めた産業集積拠点の創出の可能性についてどのように考えていますか？

【清水市長答弁】 産業系用地では工業系用途地域を中心に1000坪から3000坪規模の用地が不足しているほか、オフィス系では空室率ニーズが高い大宮、さいたま新都心駅を中心に、市全体で横浜駅周辺と同等の5.2%という低い値となっており、西区を含めた新たな産業集積拠点創出の可能性につきましては、西区では新大宮、西大宮、上

3 コミュニティバスの 利便性向上について

【金井康博質問】 コミュニティバス利便性向上を考え、乗り継ぎがしやすいような運賃体系のあり方、停留所の仕組み、運行時間帯について、さいたま市はどのように考えているのか？

【都市局長答弁】 コミュニティバス等導入ガイドラインに基づき、市街化区域の交通空白不便地区及び市街化調整区域のうち要件を満たした地域を対象とし、路線バスの補完として運行しているものであり、民間バス事業者が運行困難なエリアにおいて公的資金を投入して運行しているものです。こうしたことから、コミュニティバスと路線バスの乗り継ぎ割引につきましては、サービス向上による需要の掘り起しなど収益率向上につながるような仕組みが考え

尾バイパスといった広域幹線道路が整備され、圏央道を初めとした各高速道路へのアクセスがよいことから周辺地域において産業系の土地利用が可能となる都市基盤が整備されれば、すぐれたビジネス環境が整うものと考えております。来年度改訂予定の次期企業誘致基本計画におきまして、全市的に都市基盤整備の可能性、また企業の進出ニーズを調査するとともに有識者等の意見聴取を行いながら、必要な検討を進めていきたいと考えております。



国土交通省が渋滞のボトルネック箇所として位置づけている「三橋中央通線」の様子

●三橋中央通線について
 【金井康博質問】 普通車から大型車までたくさん車が通る路線であります。特に新大宮バイパスから水判土交差点までは、朝夕だけでなく日中も渋滞をしております。国土交通省から渋滞のボトルネック箇所として位置づけもされています。三橋中央通線の工事がなぜ進まないのか。新大宮バイパス以西の事業化に向けた課題について伺います。

4 都市計画道路整備について

られるかどうか、今後、市とバス事業者により実施の可能性について研究してまいります。既に路線バスとコミュニティバスとで同じ停留所を設置しているところでは乗りかえができる状態であります。こうした状況を生かしつつ、今後もバス停などの施設環境の向上について補助金を活用した支援を行っていくとともに、ダイヤの見直しなどにより乗り継ぎの利便性向上に努めてまいります。

【建設局長答弁】 現状の道路につきましましては道路幅員が狭く、歩道の未整備区間もありますことから、歩行空間の確保が十分でないことや、平成31年4月には近隣において中高一貫校の開校も予定されていますことなどから、より一層の安全確保について配慮していく必要があると考えております。現在事業中の三橋中央通線の進捗状況や大谷場高木線を含めた周辺道路状況などを十分考慮し、現在の計画幅員にこだわることなく、歩行者の安全確保や整備時期などを十分考慮しながら、円滑な交通を図れる整備手法について検討してまいりたいと考えております。

●大谷場高木線について

【金井康博質問】 西区の南北に通る大きな道路として計画中の都市計画道路が大谷場高木線。西大宮駅西側から島根にある市民医療センターを通って、国道463号線、埼玉大通り下大久保交差点への路線である。新大宮バイパスに平行して南北に通る大きな道路が現状ないため、新大宮バイパスは交通が集中し、渋滞も発生している。大谷場高木線は、道路網形成プログラムにおいて、廃止に向けた取り組み「廃止候補路線」となっている。三橋中央通線の計画にも大きく影響してくる路線であるが、どのように考えているのか？

【都市局長答弁】 さいたま市道路網計画において廃止候補予定路線及び廃止候補路線に分類され、平成28年度から見直しに着手する予定としておりますが、存続を望まれる声を現時点でいただいております。今後地権

5 体育館について

者の方々や関係自治会などの意見を十分に伺うとともに、周辺の将来の地域構造などを勘案しながら検討していきたいと考えております。

●三橋総合公園の体育館運用について

【金井康博質問】 三橋総合公園の体育館は全面利用しての大会などを開くことができない体育館となっております。構造は、観客席もなく出入り口が一箇所しかありません。体育館を使つた大会を開こうとしても開けないのが現状であります。なぜこのような分類がされているのか？

【都市局長答弁】

当公園のコミュニティ体育館については、競技会などで利用される従来型の体育館とは異なり、アリーナの分割使用により多様な利用形態に対応できるように考慮しているほか、観覧スペースを設けないなど、主に普段なじみのない一般の人々が利用することを想定して設置されております。

●さいたま市全体における体育館の配置について

【金井康博質問】 公共施設マネジメント計画により新規での公共施設の建設は抑制され、施設の複合化が図られておりますが、公共施設の空白の地区があるのも事実です。体育館を見ただけでも、さいたま市の西部、東部には体育館がありません。サッカー場は20面あるのに対し、体育館は7施設。平成25年度のデータでは20ある政令指定都市全体を見て

も17番目の少なさ。人口10万人当たりの体育館保有数では0.56と18番目の低さであります。体育館の配置について今後どのように考えているのか？

【スポーツ文化局長答弁】

本市の体育館につきましては、記念総合体育館を除き、合併前の旧市において建設された施設を合併後も引き続き現在まで活用している。政令指定都市の比較におきましても体育館の数は少ない状況でございますが、新規の施設整備につきましては、公共施設マネジメント計画との整合性あるいは用地の確保など多くの課題もございます。今後、体育館利用に係る市民ニーズを改めて把握した上で、策定を予定しておりますスポーツ施設の整備・運営に関する指針の中で地域全体のバランスを図りつつ、地域の方々の利用が中心となる施設と大規模大会の誘致開催も可能な施設の配置等も考慮し、本市における体育館のあり方について調査研究を進めてまいります。



全面利用ができない三橋総合公園体育館。さいたま市全体の体育館の在り方が問われている

西大宮駅南側周辺の 整理事業について

西大宮駅北側は「大宮西部特定土地区画整理事業」として（独）都市再生機構が平成10年度から施行しております。来年春に区画整理事業が完成をむかえようとしています。西大宮駅南側は「指扇土地区画整理事業」としてさいたま市が平成17年度から施行しております。「西区の新たな顔となるまちづくり」を目指して「自然環境と調和した緑と水のまちづくり」「駅前の利便性を享受するふれあいのまちづくり」「人にやさしく安全・安心で住み続けられるまちづくり」を進めています。

周辺では多くの工事車両等が行っております。皆様方におかれましてはご注意いただくとともに、工事にご理解、ご協力をお願い致します。

- ・ 施工者：さいたま市
- ・ 地区面積：約29.9ha
- ・ 計画人口：3,000人
- ・ 駅前広場：3,500㎡
- ・ 総事業費：92億円(計画)
- ・ 総事業費進捗率：18.8%
(平成27年3月31日現在)

指扇地区に複合公共 施設の設置を求める 要望書を市長へ提出



2月12日に寺島指扇地区自治会連合会長はじめ地元の自治会長様と要望書を提出して参りました。

指扇公民館は大宮西部特定土地区画整理事業により駐車場が減ってしまうこと、昭和55年建築で古いこと、指扇地区に児童センターの建設を望んでいることなどから複合公共施設の建設を要望して参りました。



金井康博

昭和48年1月6日 現さいたま市西区生まれ
1988年 大宮市立植水中学校卒業
1991年 埼玉県立浦和東高校卒業
1997年 東洋大学工学部土木工学科卒業
1997年～2002年 (株)ガイアートクマガイ
(旧熊谷道路)へ勤務
2002年～2015年 (株)イマギイレへ勤務
2015年4月 さいたま市議会議員選挙
初当選

～さいたま市議会 所属委員会～

- 市民生活委員会
(所管事項：市民局、環境局、消防局に関する事項)
- 大都市行財政制度特別委員会
- 決算・行政評価特別委員会

私が目指すこと(ビジョン・公約)

①経済・雇用対策を進めるまち

- ・若い人も農業ができる仕組みづくり
- ・元気の出る商店街づくり、企業誘致を進めるまち
- ・誰もが働ける環境作りを進めるまち

②災害に強いまちづくり

- ・都市計画道路の早期整備
- ・防災拠点の整備
- ・災害時の避難場所の整備

③全ての人にやさしいまちづくり

- ・コミュニティバスの整備、見直し

- ・子どもたちの通学路を含めた交通安全の確保
- ・野生動物の被害対策向上

④住んでみたい、住み続けたいまちづくり

- ・水と緑、自然と共存できるまちづくり
- ・西大宮駅周辺の早期整備
- ・下水道の早期整備、生活インフラの整備

⑤文化行事などの活性化

- ・お囃子、踊りなど伝統文化の継承
- ・盆踊り、夏祭りなど地域の輪を広げる活動の推進

●市民の皆様からのご意見・ご要望をお寄せください●

自由民主党さいたま市議会議員団 金井康博
〒331-0059 さいたま市西区水判土231-5
TEL 048-788-2420 / FAX 048-788-2421
E-mail: voice@kanai-nishi.com
HP:「金井やすひろニュース」で検索

